

平和ってなんだろう？

平和体験学習報告者

木村彩乃（占冠中2年生） 長瀬大翔（占冠中2年生）
高桑優奈（占冠中2年生） 山西創太（占冠中2年生）
門間和代（占冠中学校教諭）

この報告は子どもたちの報告書から抜粋したものです。

第26回 平和体験学習

8月4日～7日

広島平和記念資料館に行きました。

今から66年前、

1945年8月6日午前8時15分。広島に原子爆弾という強力な爆弾が落とされました。

原子爆弾が上空600メートルのところで爆発した。広島は、一瞬にして焼け野原。

その原子爆弾の名前は「リトル・ボーイ」。

そこから出たものは、放射線、約3000～4000 の爆風。

たった一発の原子爆弾で、建物は焼け、人々は真っ黒な炭になり、影になり、

大やけどを負い、体じゅうドロドロになりました。

とても残酷で、悲しくなってきました。

広島の人々は、放射線の影響で、ケロイド、原爆白内障や白血病などの病気にかかり、
多くの人が亡くなっていきました。



中学生の弁当箱の中身が炭になっていました。弁当箱のふたがへこんでいました。弁当箱の中身が一瞬で炭になるなんて考えられませんでした。



爆心地から2キロメートルに及ぶ市街の様子です。皮ふがドロドロになってたれていました。服も熱線によってボロボロになっていました。



上空600メートルで原子の火の玉が爆発する瞬間のところ。この大きな火の玉が爆発して、熱風や熱線、放射線が広島をおそい、14万人の人々が亡くなり、病気で30万人もの命をうばいました。



ツメも皮ふも真っ黒に焼けていました。これは中学生のものでした。もし自分が同じ立場だったら、痛くて耐えられなかったと思います。

17歳のときに被爆した田川さんからお話を聞きました。

「戦争は二度としてはいけない」

三つのことをしっかり実行すると、世界中からいじめや戦争、核兵器がなくなる。

一つ目は、優しさ。

二つ目は、思いやり。

三つ目は、他人にめいわくをかけないこと。

原爆が落とされた日、田川さんの目の前でたくさんの方が死んでいきました。

火傷を負って川へ飛び込む人々、途中で倒れていく人々、

皮ふがどろどろになって助けを求めながら死んでいく人々。

もしそれが自分の家族だったら、友達だったら、・・・とても怖いと思いました。



嵐の中の母子像です。母親は、戦争で原爆が落ちたときでも、子どものことを思い、自分を身代りにしてでも、子どもを助けたいという思いがこの像にあらわれています。



佐々木禎子さんが白血病で入院しているときに、折鶴を千羽折れば病気が治ると聞いて折った鶴の一部です。禎子さんは病気で苦しいときも願いを信じて折りつづけました。とても心が強いと思いました。



灯籠流しです。たくさんの灯籠が流れていて、たくさんの方が平和を願ってました。「戦争のない平和な世界」と灯籠に書きました。この世界から戦争、核兵器をなくしたいと思いました。



このお地蔵は、原爆の熱線を浴びました。熱線を浴びたところは融けてザラザラしてしまいました。原爆が爆発したときの光で影ができたところは少しこ焦がれていました。このお地蔵は、きれいに残っていたのでとても貴重なものだと思います。

世界の平和

戦争は、絶対としてはいけない。戦争で多くの方が亡くなりました。またそのことを繰り返すことになるから。

世界ではまだ戦争をしているところがあります。世界から核兵器や原子爆弾がなくなって、世界が永久に平和になり、すべての人々が笑顔になることを願います。その願いに少しでも近づけるように、広島で体験してきたことをより多くの人たちに伝えたいです。

広島で、テレビでは見られないものを見て、どれだけ戦争は恐ろしいかがわかりました。二度と戦争が起こらないために、私たちに何ができるのかたくさん考えたいです。

占冠村の皆さん、私たちに、平和体験学習という貴重な体験をさせてくださりましてありがとうございました。